

2017-B

VI38B

拠出金・基金  
の名称

国際開発教育・研究機関拠出金

種 別

イヤマークのみ 一部イヤマーク

【拠出先の国際機関名】アジア工科大学

【所管官庁担当局課・室名】外務省国際協力局国別協力開発第1課

【当該任意拠出金の目的・用途等】

1 アジア工科大学(AIT)は、工学・技術学部、環境・資源・開発学部等の修士課程及び博士課程を有するアジア地域トップレベルの大学院大学。AITのリモートセンシング・地理情報システム学科は、邦人教官が中心となり日本の技術や機材、人工衛星システムを活用した同分野の技術者の育成を実施している。

2 当該拠出金は、宇宙技術の要となる人工衛星を用いたリモートセンシング分野の人材育成を図るため、当該分野のアジアでの中心的存在であるアジア工科大学(AIT)を通じた支援を行うもの。拠出金はAITにおいて日本奨学金として管理され、邦人教官が教鞭をとるリモートセンシング分野の学科の学生に対して奨学金として支給される。

【最近3年間の我が国支払額及びODA率】

単 位	邦 貨 (千 円)	外貨1 (千米ドル)	外貨2 (千 )	レ ー ト	ODA率(%)
平成29年度	12,034	109		1米ドル=110円	100
平成28年度	12,034	100		1米ドル=120円	100
平成27年度	13,626	124		1米ドル= 110円	100

【当該任意拠出金等の意義、成果等に関する我が国としての評価】

1 これまでに我が国の奨学金を得て修士課程・博士課程を修了した学生及び在籍中の学生は900名以上に上る。平成24年度より、我が国奨学金を得た学生は主に邦人教官が教鞭を執るリモートセンシング・地理情報システム学科を受講することが条件となっている。奨学生の多くは卒業後はこれら分野の学問を継続したり、自国の政府や国際期間に就職するなど、国家・地域開発に貢献している。また、AITは、AITと日本企業で行う共同プロジェクトに奨学生の参加を促進するとともに、日本企業の依頼に応じて就職支援や卒業生との事業展開の側面支援を実施している。このような取組もあり、同奨学生の中には親日家として、日本企業への就職や日本の大学への進学、卒業後邦人教官と継続して交流を続けるものもあり、奨学金により上記目的が達成されていると考えられる。

2 リモートセンシングを活用した開発は、防災分野のほか、交通、農業分野など多岐にわたり、AITが産学ネットワークを活用して地域の経済開発に資する研究開発と高度な産業人材の育成に果たす役割は大きい。我が国の官民連携により宇宙産業振興に資するASEAN地域の高度な産業人材の育成が図られる。

【備考】